

令和六年度入学者選抜試験問題

人文社会科学部人文社会科学科（人間文化コース）

前期日程

国語

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の本文は、1ページから19ページまでです。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・落丁・乱丁、解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 監督者の指示にしたがって、解答用紙に大学受験番号を正しく記入してください。大学受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

— 次の文章は、重田園江おもだそのえによる「ナウシカと二ヒリズム」の全文である（原文の表記を一部変更した）。これを読んで後の問い（問1～6）に答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します

。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

問1 傍線部ア、オのカタカナを漢字に直し、楷書で書きなさい。

問2

空欄

A

、

C

に入れる語として最も適当なものを次から選んで記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回使うことはできませ

ん。

ア 表面的

イ 相互的

ウ 本質的

エ 対照的

オ 時間的

問3 本文で一般的な定義によるニヒリズムについて述べている箇所について、空欄 a と b に入れる語句として最も適当なものを本文から選び答えなさい。ただし、空欄 a は二字、空欄 b は五字で答えること。

問4 筆者の定義によるニヒリズムとはどのようなものか、三十字以上、三十五字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問5 傍線部A「ナウシカはテトの名を思い出すことで、ニヒリズムの罠から脱した。」とあるが、なぜテトの名を思い出すことがニヒリズムの罠から脱することにつながるのか。その理由を四十字以上、五十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問6 以下の人物のうち、筆者の定義によるニヒリストはどれか、その人物名を記号で答えなさい。また、その人物がニヒリストであると判断できる理由を、本文中のその人物の行動や態度に即して、六十字以上、八十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

ア ナウシカ

イ 土鬼の皇兄ナムリス

ウ トルメキアの二人の王子

二 次の文章は、パリュスあや子の小説『呼ぶ骨』の一部である(原文の表記を一部変更した)。大学生の真白^{ましろ}は何か「呼ばれる」とそれを盗みたいという衝動を抑えられない。ゼミの飲み会の帰りに、電車の網棚に置き忘れられた紙袋を持ち帰ったが、中身は骨壺^{こつぽ}だったため捨てるに捨てられず、誰かの遺骨と同居することになってしまう。その飲み会で朋子^{ともこ}の財布がなくなったことに関して、他の友達から真白が疑われるが、後日、財布が見つかったことで朋子から嫌な思いをさせたと謝罪を受ける。以下はそれに続く場面である。これを読んで後の問い(問1～5)に答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直し、楷書で書きなさい。

問2 傍線部A「哀しくなるほど」について、なぜ真白はおばさんの行為についてこのように感じたのか。その理由を五十字以上、六十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問3 傍線部B「そうなんだけど、しつくりこない。」について、なぜ真白はそう感じたのか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 確かに骨ではあるが、拾得物件の一般的な名称として書くには違和感があったから。
- イ 自分にとつてその骨は、単なる遺失物の骨ではなく特別な存在になっていたから。
- ウ 拾得物の扱いに慣れ切った職員に反発して、正直に預り書を書く気がなくなったから。
- エ 蓋を開けたことがないので、中に骨が入っているのか断言できないと気づいたから。
- オ その骨は他の骨とは違って、人間の行動を左右する力を持った不思議な骨だったから。

問4 傍線部C「骨は踊りもせず、心配そうに、ただじつと私を見ていた。」とは、真白のどのような心理状態を表しているのか。その内容を八十字以上、百字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問5 傍線部D「呼びかけてくれている。」が表す真白の気づきとは何か。その内容を「骨」「友達」「先輩」という言葉を用いて百二十字以上、百四十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

三 次に示す問題文Ⅰは中村桃子による『自分らしさ』と日本語の「第3章 呼称——呼び方で変わる関係」の一部(原文の表記を一部変更した)である。また、問題文Ⅱは松村栄子による小説『僕はかぐや姫』の一部(原文の表記を一部変更した)で、女子高校生である主人公千田裕生ちだひろみとその友人の狭山穂香さやましずかが会話している場面である。問題文Ⅰ、問題文Ⅱを読んで後の問い(問1～3)に答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

問1 問題文Ⅱの傍線部A「男とか女とか言う前ののつべらぼうな人間」と傍線部B「透明な人間性という意識だった。性以前の透明な精神性。」について、穂香の「のつべらぼう」という表現と裕生の「透明」という表現の違いに基づき、この二人の性に関する態度の違いを八十字以上、百字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問2 問題文Ⅱの傍線部C「彼……いるんだ？」について、次の問いに答えなさい。

① 裕生は穂香の言動の何を手がかりとして穂香に「彼」がいると気づいたのか。その内容を三十字以上、四十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

② 裕生は①の手がかりをもとにして穂香に「彼」がいると推測した。その根拠となる裕生の考え方を問題文Ⅰの言葉を用いながら百字以上、百二十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問3 問題文Ⅱにおいて裕生が自称詞として「僕」を使っている理由を、問題文Ⅰの言葉を用いながら百字以上、百二十字以内で書きなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。